



ごてんびないっしき  
**御殿雛一式**

(一宮町教育委員会所蔵)

【昭和10年(1935)代頃か】

平成31年(2019)1月 寄贈



さいじょうだん 最上段が <sup>ごてんびな</sup>「御殿雛」と呼ばれる <sup>よ ひなにんぎょう</sup>雛人形で、<sup>めいじじだいまつき</sup>明治時代末期から <sup>たいしょうじだいしよき</sup>大正時代初期に  
<sup>ぜんこくてき</sup>かけて全国的に <sup>りゅうこう</sup>流行した <sup>ひなにんぎょう</sup>雛人形の <sup>けいしき</sup>形式です。<sup>きょうとごしょ</sup>京都御所の <sup>ししんでん</sup>紫宸殿を <sup>も</sup>模した <sup>りっぱ</sup>立派な





たてもの なか ひなにんぎょう はいち  
建物の中に雛人形を配置したものです。

だんめ む ひだり にんぎょう たかさご くみにんぎょう たかさご のう さくひん ひと  
5段目向かって左の人形は「高砂」の組人形です。高砂は能の作品の一つで、

あいおい まつ ふうふあい ちょうじゅ め のう  
相生の松によせて、夫婦愛と長寿を愛でる能です。

だんめ む みぎ にんぎょう さんじょう こ か じ くみにんぎょう さんじょう こ か じ  
5段目向かって右の人形は「三條小鍛冶」の組人形です。三條小鍛冶とは

ようきょく ひと へいあんじだい きょうさんじょう す どうこう さんじょうむねちか いちじょうてんのう  
謡曲のテーマの一つで、平安時代、京三条に住む刀工・三條宗近が一条天皇

みつるぎ う いなりやま こも きがん いなりしん あらわ むこうづち  
の御剣を打つこととなり、稻荷山に籠って祈願すると稻荷神が現れて向槌をつと

めいとう こぎつねまる う ようきょく くみにんぎょう か じ  
め、名刀・小狐丸を打つことができた、という謡曲です。この組人形はその鍛冶

ばめん あらわ  
の場面を現しています。

とうじしこく す きゅうしよぞうしゃ かた たんじょう しょうわ ねんだい さい  
これらは当時四国に住んでいた旧所蔵者の方が誕生（昭和10年代）した際に

こうにゆう ごてんびないがい か た  
購入されたものと伝わります。御殿雛以外のものはのちに買い足されたものとみら

れます。

まいとし がつ がつ むしぼ か いちのみやまちちゅうおうこうみんかん てんじ  
毎年2月から3月にかけて、虫干しも兼ねて一宮町中央公民館のロビーで展示し

ています。

